

## 【商標の取得】

商標は特許庁に申請して登録をするものですし  
インターネットでも専門家の広告がたくさん出ています。  
ですので、専門家に依頼しないと取得できないと  
思っている方も多いと思いますが実はそんなことはありません。

私自身が、自分で商標登録に挑戦し取得できています。  
とにかく何も分からない状態だったので  
ネットで検索し情報を集めながら  
悪戦苦闘して何度もやり取りしながら何とか取得できました。

やってみて思ったのですが  
結局これもノウハウで知ってしまえば誰にでもできます。

専門家に頼むとそこそこのお金がかかりますので  
そのための下準備や調査は必要ですが  
できれば自分でやってしまった方がよいと私は考えています。

それでは、そもそも商標は何でしょうか。  
検索すると  
「自己の生産・販売・取扱い等であることを表すために、商品につける、  
その営業者独得の標識。トレード マーク」とでてきます。

自分の商品やサービスを表すロゴや名前のことと考えれば OK です。  
ですのでもし小ひよを取得せずに商品やサービスを販売していた場合に  
他の人に商標を取られるとその名前やロゴが使用できなくなります。  
これは一大事です。  
もし自分の商品やサービスがある場合は後々の事も考えて  
商標は取得してきましょう。

商標の取得にあたって色々な用語がでてきますが  
まず覚えておかないといけないのが「区分」です。

簡単に言えばカテゴリーのことです。  
商標は取得すればなんにでもどんなことにも使えるものではありません。

ある一定の範囲を指定して取得することになります。

特許庁のページ

[https://www.jpo.go.jp/shiryou/kijun/kijun2/ruiji\\_kijun9.htm](https://www.jpo.go.jp/shiryou/kijun/kijun2/ruiji_kijun9.htm)

全部で 45 分類ありますが、例えば鞆を販売するなら 18 類  
レストランなどは 43 類などです。

つまり、自分が無いをやっているかによって取得すべき  
区分が決まってきます。

では、具体的に商標を登録する手順について解説していきます、

#### 1.登録したい商標が既に登録されていないか調べる

商標は自分の商品やサービスを表すロゴや名前のことで  
他の人に取られるとその名前やロゴが使えなくなりますと言いましたが  
逆の場合があります。

既に使いたい商標が誰かに取られていた場合  
あなたは同じ名前やロゴの商標を取得できなくなります。

厳密には分類が違うなど一定の条件であれば取得できないことはありませんが  
それは特許庁の判断になりますので  
確実性を求めるならだれも取得していないものを選びましょう。

補足：まったく同じでなくても極めて近しいようなものも却下の可能性が  
高くなります。できるだけ被らないものにしてください。

既に商標が登録されているかどうかは下記のサイトで調べることができます。

**J-PlatPat** 特許・実用新案、意匠、商標の簡易検索

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage>

このページのトップにある検索窓で  
プルダウンを商標を探すにして  
あとは、検索ボックスに調べたい商標を入れるだけで

商標が既に登録されているかどうかを確認できます。

## 2 申請する商標の区分を調べる

次にやることは商標を申請する区分を調べることです。

自分の商標はどの区分に該当するのかを考えるのですが、

方法としては自分の商品やサービスの

類似するサービスがどんな区分で申請が出されているかを見て参考にします。

これが最も簡単な方法です。

調べるとわかりますが、分類を指定する際に

詳細な説明が必要になってきます。

これも商標の申請時に記載しますので分類と同様に参考にしてください。

分類が確認できたらどの分類でどういう説明をするのかをイメージしておいてください。

## 3.必要な書類を用意します。

商標の申請方法は、電子出願（オンライン出願）と書類出願の2通りがあります。

オンライン出願をやろうとすると事前に環境を作らなければなりませんので

個人で出願する場合は書類出願でやったほうが簡単です。

必要書類は、特許庁のHPでダウンロードができます。

（もしくはコンサル生ページからダウンロード）

書き方を説明すると、

【書類名】：このままでOK

【整理番号】：自分の管理しやすい番号を記載（10桁以内で、ローマ字・算用数字・ハイフンが利用可能）

【提出日】：郵送する場合は、郵便局にもっていく日。特許庁に持っていく場合は、持っていく行く日を記載

【あて先】：このままでOK

【商標登録を受けようとする商標】：商標登録したい文字やロゴなど、ロゴの場合は画像も必要

【第 類】：商標を登録する区分を記載

【指定商品（指定役務）】：登録する商標の詳細

【識別番号】：はじめての場合は空欄で OK。

【住所又は居所】：会社の場合は登記されている場所。個人の場合は住民票のある場所

【氏名または名称】：会社の場合は会社名。個人の名前は氏名

【代表者】 会社の場合は代表取締役。個人の場合は記載の必要なし。

【印】 会社の場合は代表者印。個人の場合は苗字の記載がある印鑑。

【国籍】 日本人以外の場合は記載。

【電話番号】 連絡のとれる電話番号を記載。

【物件名】 なにも書かなくて OK

です。

内容的には難しいものではありません。

心配なら特許庁に電話して確認もできます。

特許庁の電話番号：03-3581-1101

さて、出願するには費用がかかりますので

その分の印紙を出願書類に貼ります。

この時に貼る印紙は「特許印紙」というもので

小さな郵便局ではおいていないことが多いので

できるだけ大きな郵便局に行きましょう。

印紙代は提出する際の区分数によって異なり

基本的には下記の計算になります。

出願費用：3,400 円＋8,600 円×（区分数）

例えば、ファッションブランドをやっている

アパレル（25 類）とかばん類（18 類）で商標を申請する場合は

出願費用：3,400 円＋8,600 円×2＝20,600 円

となります。

特許印紙は申請書類の左上に貼ります。

これで書類が完成しました。

#### 4.出願する

作成した書類を特許庁に送ります。

書留の郵送で特許庁に送ります。

あて先は

〒100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁 御中

(商標登録出願書類在中)

です。

もしくは東京都内や近郊に住んでいる場合は

特許庁に直接持っていく方法もあります。

この場合はその場で不備があるか確認をしてもらえますので  
できる方は直接持ち込んでください。

補足：郵送でもし間違えてしまっても間違った箇所の指摘が  
特許庁からきます。

#### 5.出願後

基本的には、この流れで商標登録ができます。

登録には出願からおおよそ半年ほどかかりますが気長に待ってください。

もし、書類に不備がある場合などは、手続き補正所などを特許庁から求められますが、  
その都度電話などで特許庁に問い合わせて解決が可能です。

また、出願後、手続き補正所など追加の書類を提出した後、  
約1ヶ月くらいで出願情報の電子化手数料の請求が届きます。

特許庁では利便性の向上とコスト削減のため

出願された情報を電子化しています。その手数料です。

出願時はもちろん手続き補正所など特許庁に書類を提出する毎にかかりますので  
できるだけ回数を少なくするように書類の不備には注意してください。

#### 6.特許庁から返答

申請した商標は特許庁で審査され登録の可否が判断されます。

登録が許可された時は何の問題ありません。

特許庁から商標の登録を許可する旨の書類と

商標の登録費用の請求書が届きます。

商標の登録費用は 5 年で 16,400 円、10 年で 28,200 円です。

これも郵便局に行って所定の用紙に印紙を貼り郵送すれば終わりです。

あとは待っていれば商標の登録証がとどきますので

これで晴れて商標登録が完了します。

問題は、「拒絶通知」があった場合です。

おおよそ出願から 1～2 か月程度で来ます。

この場合は商標の登録を認めないということです。

理由は様々ありそれも通知書類に記載されています。

この通知が来たからといって商標が絶対に登録できない訳ではありません。

その内容を見て意見書を出すことができます。

つまり、特許庁は認めなかったけれど〇〇という理由で

商標の登録を認めるのが妥当だ、という内容を送り

もう一度審査をやり直してもらうことができます。

実際に商標の可否を判断するのは人がやっていますので

審査する人がわかりやすく納得するような内容や資料を用意し

意見書を提出するのがコツです。

意見書の送り先も出願時と同様ですし

電子化手数料も同様に発生します。

ですが、せっかく調べて提出した商標ですので

何とか取得できるように頑張りましょう。

ぜひ自力での商標登録にチャレンジしてみてください。